

テーマ：インターネット科学技術 (IT) 発展の趨勢

第13回ワンアジア財団国際講座は「關貿網路股份有限公司 (trade-van；トレード・ヴァン)」CEO (理事長) の許建隆先生がご担当なさった。許先生は国立台北大学企業管理学博士で、嘗て国立暨南国際大学等で教鞭をお執りになった。先生はまた中華民国情報ソフトウェア協会常務理事、中華民国関税協会顧問等の職務も歴任され、産官学の各界で非常に豊富な経歴をお持ちである。先生は、ご自分の職場では多数の異なる身分をお持ちであっても、最も重要な点は「何かを成すには何をすべきか」という点である、と述べられた。先生は嘗て第15回国家ブランド玉山賞を受賞され、第25回国家品質賞等の多数の受賞歴もある非常に傑出した企業家でいらっしゃる。先生は受賞は最高の宣伝効果であると認めており、そのため受講生を励ますために自らの得意分野で力を発揮し、今後、色々な受賞を勝ち取るよう努めることを促した。

許先生は現在CEOをお務めの「關貿網路股份有限公司」をご紹介なさった。同社は設立されて30年、579名の社員を擁するインターネット・ソフトウェア・サービスの国内企業である。近年、インターネット科学技術 (IT) 発展の趨勢は、既に税務申告、通関貿易、電子ビジネス、食糧及び医薬品の安全管理、安定的な情報サービス業務などの領域の他、積極的に且つ異なる産業の協力のもとにある。先生は貨物通関自動化ネットサービス競争において優位を勝ち取るには、情報・物流・ビジネス・貿易についての需要を掌握し、業務領域において各界を横断する必要があると述べた。

現在、未来のAI時代に向かって、企業がイノベーションを加速する必要があり、積極的に越境し多様な領域を統合する必要がある。先生はABCDE+Iという概念を打ち出した。AはAI、BはBlock chain、CはCloud、DはData、EはEco-system、そしてIはIOTであり、新しい時代の企業が持続的に発展するために必要なものとして、人工知能・ビッグデータ・ブロックチェーン (分散型ネットワーク)・金融科学技術・物流ネットワーク等、科学技術イノベーションの領域に持続的に深く関係し、各領域業務を速やかに進め、完成させ、且つ安全なサービスを開発する。

科学技術の進歩は日進月歩であり、現在の世界は疑うことなく情報爆発の時代を迎え、若者は激しい競争の環境に身を置き、皆それぞれが近い将来、半分以上の仕事をAIに奪われる時代が到来することを憂えている。このような時代の流れの中で若い世代は多元的な専門技術を養うべきで、例えば言語能力に加えてコンピュータ専門技術を加えるなどが必須である。先生は、ご自身のお仕事の経験の中でコンピュータ情報発達の今日、情報セキュリティ管理に関する事件が日常生

活の中でずっと続いている。プログラム開発の社員や情報セキュリティに関する社員に対する要求は増える一方である。将来、就職後の給与と自分の能力の対価の関係を考えれば、やはり安定的に高給を得るためには自分の能力を養う必要がある。先生は学生に自分の専門領域の核心的能力を強化するとともに、自分の専門範疇に第二、第三の専門性を拡充するように建言した。その他、今後の市場で要求される動向を予測し、早いうちに将来の青写真を作成するよう話した。

今回の講演で許先生は貨物自動化通関サービスのもとで既に実際のイノベーション業務を通して、この仕事がAI・IOT・ビッグデータ・ブロックチェーン・金融科学技術等の応用によるイノベーションは各産業間の協力を通して、更なる至便なサービスを招来させると指摘した。先生は科学技術は常に人類の生活および消費形態を変えていくことを認め、言うまでもなく企業あるいは個人が時代の潮流に順応していくことが必要だとした。ただし、結局、人類とAIは同じではなく、人類は感情があるので、学生がAIに技能や能力を奪われる前にAIを学ぶべきだと注意を促した。学生が自らの専門技能を高めることを望み、情報化時代に直面する思考を持つことを指摘した。もし考え方を変えることができないなら、淘汰される運命を免れることはできない。最後に先生は受講生を励ました、ただ決心するだけで、自らの失効力は事情を好転させる。だから良い人生を歩むならば決心して実践するのみであり、そうすれば必ずや成功するだろうと。

(ウェブサイト：<https://oneasia.pccu.edu.tw/faculty.php>)

(原稿作成：林孟蓉・日文系副教授)

(翻訳：齋藤正志・日文系副教授)